令和7年4月 8 日

モールス講習会を終えて

JH8CBH 佐々木 朗

4月に入り、雪も消え、函館にも優しい春の風が吹いてくるようになりました。1月から始めたモールス講習会も3月で、無事終了し、少し安堵した気持ちで、日々を過ごしています。

コロナ禍で、テレビ電話がにわかに使われるようになったことにヒントを得て、「ZOOM を使ったら、全国どこにいても、モールスを教えることができるのではないか。」と思って始めたこの講習会も今年で3回目。1月 1 日から3月 31 日まで休みなしの毎晩8時というタイトなスケジュールですが、参加者を募集したところ、北は函館、南は九州まで全国から 15 名が集まりました。

レベル差をできるだけ抑えるため、「ゆっくりでも符号が取れない方」を対象に、元日の夜から講習がスタートしました。現行の試験では、モールス符号は、点と棒で出題されますが、それを覚えているからと言って、音で流れてくる符号を取ることなどできません。最初の一週間は、26文字を5つに分け、繰り返し繰り返し、音を流して慣れてもらいました。

それからは、26文字を6秒空けから、少しずつ間隔を詰めていきました。参加者にとっては、一番つらい段階となります。毎晩 30 分の練習ですが、受講者の皆さんにとっては、頭をフル回転させる時間になったようです。講習の内容は録音し、ホームページにアップしましたので、毎日復習されたという方も多くいました。

2 月に入り、アルファベットに、コールサインの聞き取り、さらに、JCCや名前などを加え、少しずつ実践に近づけていきました。

その頃になると、ひな鳥たちも、羽をバタつかせて、巣立ちの時期をうかがっているようです。希望者に声をかけながら、7メガでの初交信をすることができました。私も長いことCWをやっておりますので、彼らの信号を聞くだけで、その緊張感が手に取るようにわかります。最初は、「599 BK」だけの交信でしたが、何十年も目標としてきた CW の交信の夢がかなったということで、感激のメッセージもいた

だきました。

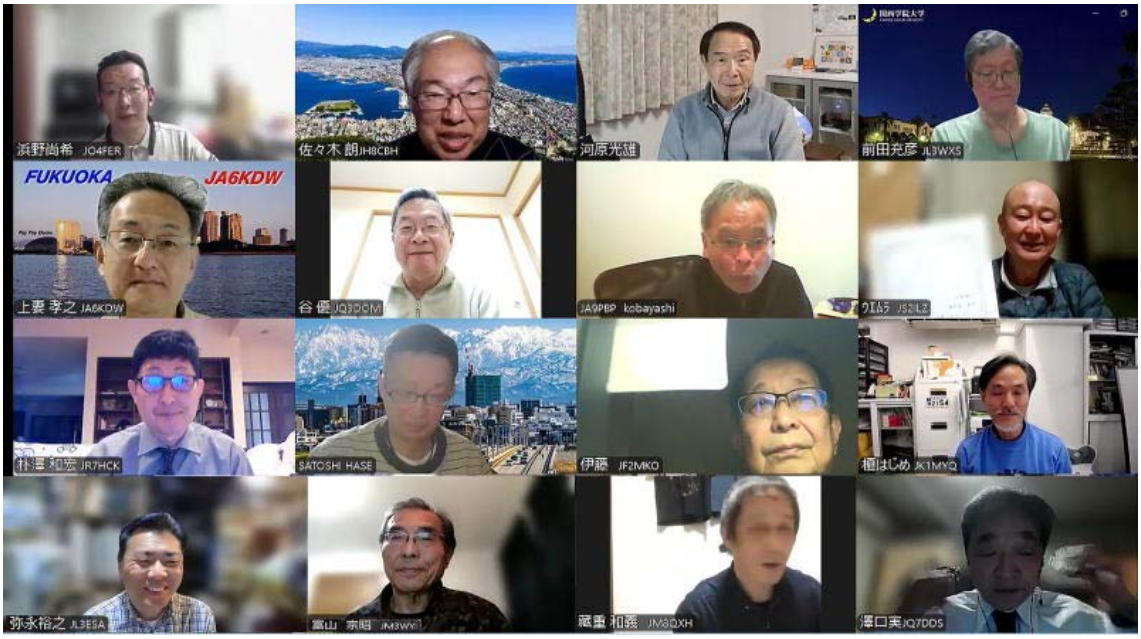
3月に入ると、週末に、オンエアデーを決めて、レポートにプラスして、JCC やオペレータネームも取り入れた交信実戦も盛んになりました。過去2回の修了生たちも、応援してくれたのもとても頼もしかったし、感謝しました。「自らCQを出すことができるようになりました」「今は、CW

バンドばかりワッチしています。」などとCW の魅力を体いっぱいに感じてくださったという報告もいただきました。私にとっては、次々と巣立ちをしていく子どもたちを見送るような思いです。

いよいよ3月 31 日。90 回目、最終日です。修了式では、受講生一人一人から、今後の目標や夢を語っていただきました。CW は、マイクを握るのと違って、符号を覚えて、それを取ることができなければできない通信であり、また、電話にはない不思議な魅力もたくさんあります。いつか、今度は、CWの楽しさを語る立場になってくれればいいなあと思います。また、現在はアマチュア無線だけに使われるようになりつつある、CW ですが、すばらしい文化を後世にも残していくことができればなあと思っています。そんなお話をしながら、修了式を終えました。15 名の皆さんは無事、巣立ちを見届け、私の役目もひと段落です。

通信士のたくさんいたここ函館で、育った私は、ことモールスに関しては厳しくその作法や、また、楽しみを教えていただきました。「恩返し」の言葉がぴったりかどうかわかりませんが、これからも CW の魅力を伝えていくことができればなあと思っています。

令和 6 年度のモールス講習会の全記録は
https://edu-hakodate.jp/sasaki/jh8cbh/2025cw/
にあります。



3 月 31 日の修了式の記念写真